

すべて、この海で起きたこと。

甫木元空 個展 その次の季節

2021.6.12 Sat. - 7.4 Sun.
9:00-17:00 入場無料 月曜休館

主催・会場「すさぎまちかどギャラリー／旧三浦邸」

高知県須崎市青木町1-16 電話 050-8803-8668

http://machikado-gallery.com/

キレター「塚本麻莉（高知県立美術館学芸員） 助成「公益財団法人高知県文化財団 後援「高知新聞社」RKC高知放送
詩「大崎二郎 協力「コールサック社、山本衛、幡多高校生ゼミナール 音楽「Corey Fuller 音響設計「WHITELIGHT



びきに・じけん
【ビキニ事件】
一九五四年、マーシャル諸島ビキニ環礁・エニウェトク環礁で行われた米国の水爆実験で発生した放射性降下物により、第五福竜丸をはじめ高知県の漁船を含む多数の日本漁船が汚染マクロを廃棄させられた事件。

ほうしゃ・のう放射能
【放射能】放射性元素が崩壊を起こして別の元素に変化する性質。放射線を出す能力。

ひばく【被曝】放射能にさらされること。

えん・よう・ぎょぎょう【遠洋漁業】太平洋や大西洋、インド洋など日本から遠く離れた海洋を漁場とする漁業。遠洋マクロはえ縄漁業、カツオ一本釣り漁業などがある。

おおさき・じろう
【大崎二郎】高知県須崎市出身の詩人。社会派詩人として高知を拠点に活動し、詩作を通して日本の戦争責任や平和への願いを訴えた。作品には海を題材としたものも多く、ビキニ事件にまつわる詩も残した。詩集『走り者』など。（一九二八～二〇一七）

この度すさまなかギャラリーでは、四万十町在住の映画作家・**甫木元空**の個展を開催します。

これまで甫木元は、自身の個人的な記憶や身体的感覚を手がかりに、映画や音楽の領域を自由に行き来して表現活動を展開してきました。本展では、一般に「ビキニ事件」と呼ばれる核被災事件を取り上げ、高知在住の関係者に取材した新作を発表します。

1954年、マージナル諸島ビキニ環礁で行われた米国の水爆実験で発生した放射性降下物は、近隣海域で操業していた日本のマグロ漁船に降り注ぎ、広島・長崎に次ぐ新たな被曝者を生み出しました。生活のために過酷な労働環境のマグロ漁船に乗り込んで被曝し、さまざまな理不尽を負わされてきた元漁師やその家族たち。作家は取材を進めて状況を咀嚼するなかで、事件前後の壮絶な日々を語る人々の姿に、日本の戦争責任を訴え、負の歴史の忘却に抗った須崎市出身の詩人・大崎二郎の姿を重ねるようになりました。

薄れていく記憶。洞察に富んだ詩人の言葉。老いる人間とは対照的に、変わらず存在する海。甫木元は、過去を語る関係者の姿に複数の異なる文脈を有機的に接続し、映像や音声を駆使したインスタレーションとして組み立て、これまでにない角度から事件にまつわる人々の記憶に光をあてることを試みます。

大崎の詩集タイトルから引用した「その次の季節」という展覧会名には、現在を生きる作家の、過去の世代が体験した歴史を受け継ぐとする意思が込められています。本展が、作家の視線を介して大文字の歴史の行間を覗き、事件に翻弄された人々の存在に目を留める機会となることを願っています。

画像：表2,3,4「その次の季節」2021年、1（願）2021年 作者はすべて甫木元空



高知龍馬空港より車で約60分。
高知自動車道高知ICより車で約30分。
須崎中央ICを降りて約3分。
JR高知駅より特急で約30分。
須崎駅下車徒歩8分（約600m）。
須崎第2地方合同庁舎から南へ100m。



すさまなかギャラリー
旧三浦邸

<http://machikado-gallery.com/>

感染症拡大防止のため、以下のご協力をお願いします。
①必ずマスクを着用してください
②適切な距離を保っての鑑賞 ③手指のアルコール消毒

甫木元空（ほきもと くら）1952年、埼玉県生まれ、高知県四万十町在住。多摩美術大学映像演劇学科卒業。これまで手がけた映画に2014年の「終わりのない歌」や全国劇場公開された16年の「はるね」などがある。MV制作や音楽活動も行い、19年には4人組バンド「Braylocks」を結成、ボーカルや作詞を担当。20年、須崎市のアート事業「現代地方譚8」の総合ディレクターを務めた。映画による表現をベースに、音楽制作やライブ演奏、パフォーマンスなど、ジャンルにとらわれない横断的な活動を続ける。

関連イベント「参加無料」

すべて先着申込制。下記QRコードを読み取り、申込フォームからお申し込みください。



6.12 Sat.14:00～

アーティスト・トーク（先着10名）

作家が会場でギャラリートークを行います。

6.26 Sat.14:00～

山下正寿氏による特別レクチャー（先着10名）

幡多地域の高校生による自主サークル「幡多高校生ゼミナール」の学生たちと共に、80年代からビキニ事件の被害者の聞き取り調査を続けている山下正寿氏をお招きし、教育者としての観点から、これまでの活動についてお話いただきます。

山下正寿氏 プロフィール

1945年高知県宿毛市生まれ。早稲田大学卒業後、高知県の高校社会科教師として30年勤務。現在、太平洋核被災支援センター事務局長。

7.4 Sun.14:00～

生演奏付き映画上映会
「終わりのない歌」（先着20名）

監督：甫木元空、2014年、68分

会場：すさまなか学舎（須崎市東古市町2-2）

作家自身の亡父が撮影したホームビデオを素材に用いたセルフ・ドキュメンタリー。息子の成長を見守る父の視線と、成長して父を喪った息子の視線とが交錯し、ある家族の過去と現在の姿が浮かび上がる。本上映は、作家による生演奏付きでお送りします。

新型コロナウイルスの感染の状況によっては、イベントを中止する可能性もございます

